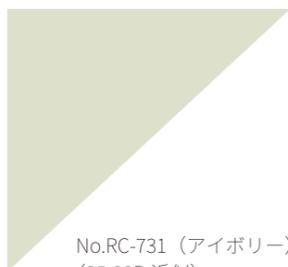


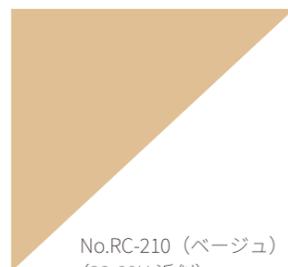
## カラー標準色



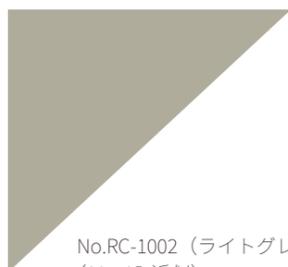
No.RC-309 (ホワイト)  
(29-90B 近似)



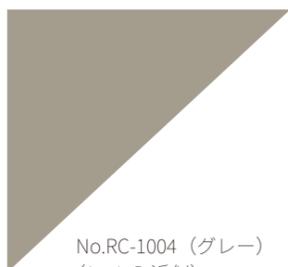
No.RC-731 (アイボリー)  
(35-90B 近似)



No.RC-210 (ベージュ)  
(22-80H 近似)



No.RC-1002 (ライトグレー)  
(29-70B 近似)



No.RC-1004 (グレー)  
(25-65B 近似)



No.RC-1037 (ブラック)  
(N-10 近似)



No.RC-442 (グリーン)  
(49-30L 近似)



No.RC-701 (ライトブルー)  
(55-80H 近似)



No.RC-746 (ブルー)  
(69-40T 近似)

- 色見本は印刷のため、実物と多少異なります。
- 上記の標準色以外の特注色には追加料金がかかりますので、ご了承ください。
- 価格および納期についてはお問い合わせください。

## 重防食防水特殊エポキシ塗料

# エポプルーフ

**For the future of the earth**

エポプルーフA:Dカラーは水道水用塗料の水質基準に適合しています。(JWWA K 157・143)

製造販売元 ▶



**菱洋株式会社**

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-2-17  
喜助お茶の水ビル9階91号室  
TEL:03-6206-0450 (代) FAX:03-6206-0451  
URL <https://www.ryo-yo.jp/>



販売代理店 ▶



**菱洋株式会社**

2024年6月改訂

# エポプルーフ

エポプルーフは重防食・防水を目的に開発された無溶剤型のエポキシ樹脂系常温硬化型の弾性塗材です。耐油、耐酸性にも優れ、鉄鋼、建設土木、造船、海洋施設業界で20年以上の耐久実績が数多くあります。

## エポプルーフの特長

- ①鉄構造物の場合は3種ケレン以上で塗装が可能です。
- ②5°C以上あれば硬化反応が徐々に進行します。(10°C以上が好ましいです。)
- ③鉄 非鉄金属、ステンレス、コンクリート、FRPにもプライマー不要で塗装出来ます。
- ④エポプルーフは主剤：硬化剤1：1の混合比で作業性に優れます。
- ⑤飲料水タンクの防食・防水に優れ、塗装後の塗面は衛生上安全です。

## エポプルーフA:Dカラー基本性能

A:D カラー	
組成	エポキシ樹脂
色相	主剤 A 各色カラー 硬化剤 D 淡黄色粘稠液
混合割合 (重量比)	主剤：硬化剤=1:1
可使時間 (分/20°C)	50
指触乾燥 (時間/20°C)	8～10
標準塗布量 (kg/㎡)	0.25
希釈率	専用シンナー 0～3%
塗装用具	ハケ・ローラー

## エポプルーフの硬化物の耐薬品性能

試験項目	グレード		備考
	A:D		
硫酸 5%	○		常温
硫酸 10%	○		常温
塩酸 10%	○		常温
苛性ソーダ 20～25%	○		常温
純水	○		常温
潤滑油 (作動油)	○		常温
軽油	○		5～10年
重油 (Aのみ)	○		5～10年
トルエン、トリクレン、アルコール類	×		常温
好気性細菌発生域	△		常温
嫌気性細菌発生域	×		常温

カタログに記載されていないものは別途お問い合わせください。

## 関連商品

### ●ASP:DSP (コンクリート面専用 浸透性補強剤)

中性化又は脆弱化したコンクリートにおいては、微細クラックの発生したコンクリートの素地に密着して、コンクリート層の防水性や強度を向上、活性化する無溶剤型低粘度の2液型エポキシ樹脂塗材です。

#### 特徴

- ①低粘度で微細孔によく密着します。
- ②多少の湿潤面、高湿度の環境下でも塗装できます。
- ③速乾性で、硬化塗膜は淡黄色透明、微臭で耐水性、耐食性、耐衝撃性、耐熱性に優れています。

## エポプルーフASP:DSP基本性能

ASP:DSP	
組成	エポキシ樹脂
色相	主剤 ASP 淡黄色低粘透明液 硬化剤 DSP 淡黄色粘稠液
混合割合 (重量比)	主剤：硬化剤=1：1
可使時間 (分/20°C)	40
指触乾燥 (時間/20°C)	4～6
標準塗布量 (kg/㎡)	0.25
希釈率	専用シンナー 0～3%
塗装用具	ハケ・ローラー

## 製品特性・適用用途

### 製品特性

特 性	◎良 ○可 ×不可	
	A:D カラー	ASP:DSP
素地調整は三種ケレンで塗装可能	◎	×
湿潤面への塗装	○	○
中性化、脆弱化コンクリート面に直接塗布できる	○	◎
鉄鋼、非金属、コンクリート面に直接塗布できる	◎	○
硬化塗膜は耐水性、耐食性、耐衝撃性、耐熱性に優れる	◎	○

### 適正用途

用 途	◎良 ○可 ×不可	
	A:D カラー	ASP:DSP
鉄構造物の重防食 (下塗・中塗) 船舶構造物	◎	×
終末処理、排水処理施設 (新設・補修)	◎	○
上水施設、食品工場床のライニング、飲料水槽 各種材質のプール	◎	○
灯油、軽油タンク内面	◎	×
道路、トンネル、橋梁などのコンクリートの防食、防水	◎	◎
海洋施設、導水管内など	◎	○

# 施工仕様例

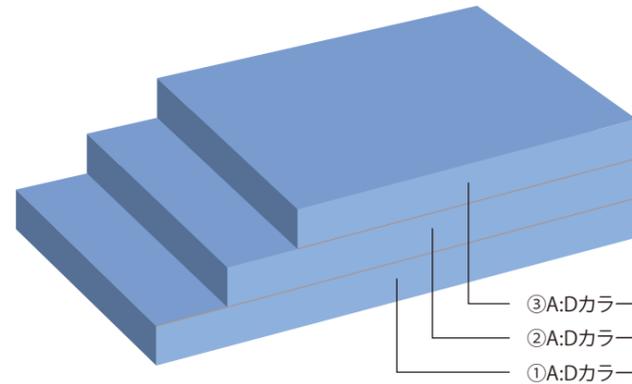
## 標準施工仕様

工程	使用材料	標準塗布量	膜厚 (μ)	塗装間隔 (20°C)	希釈率
素地調整	素地面によって異なります。仕様書をご確認ください。				
下塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	素地調整後直ちに	0～3%
中塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%
上塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%

※JWWA基準適合仕様の場合、材料の希釈は、原則禁止です。

※紫外線曝露環境（屋外施設など）においては、トップコートが必要です。お問い合わせください。

※その他ご相談などございましたらお気軽にお問い合わせください。



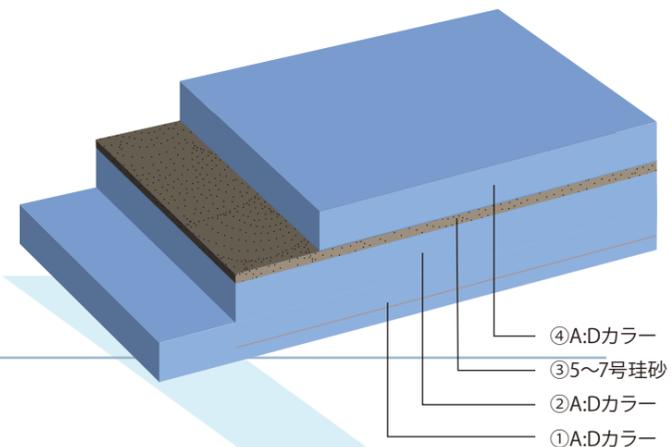
## ノンスリップ工法標準施工仕様

工程	使用材料	標準塗布量	膜厚 (μ)	塗装間隔 (20°C)	希釈率
素地調整	素地面によって異なります。仕様書をご確認ください。				
下塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	素地調整後直ちに	0～3%
中塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%
防滑処理	5～7号珪砂	0.8～1.0kg	—	中塗り作業と同時	—
上塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%

※塗膜が指触乾燥する前に珪砂などを散布することで、滑りにくい床面等を生み出せます。

### 方法

- ・珪砂散布は中塗り作業と同時、又は作業後ただちに行い、中塗り塗膜指触硬化前に完了してください。
- ・上塗り作業前に余分な珪砂をよく拭き取ってください。



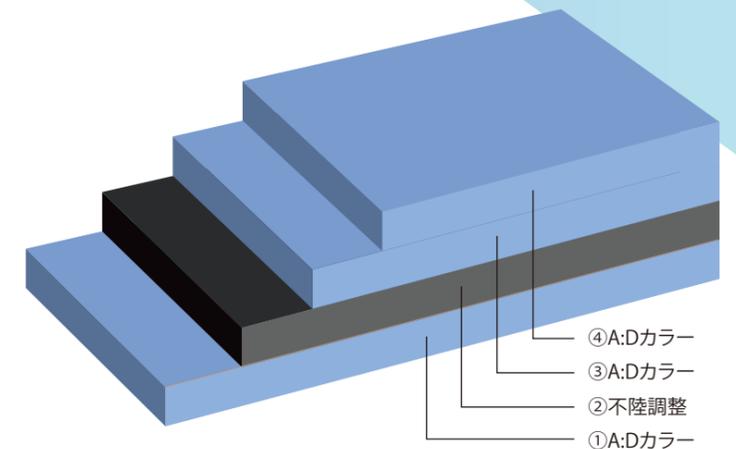
※数値はすべて標準のものです。下地、素地の状態、気象条件、施工条件によって変わります。その他詳しい施工手順などはお問い合わせください。

## 不陸調整標準施工仕様

工程	使用材料	標準塗布量	膜厚 (μ)	塗装間隔 (20°C)	希釈率
素地調整	素地面によって異なります。仕様書をご確認ください。				
下塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	素地調整後直ちに	0～3%
不陸調整	エポブルーフ樹脂パテ エポブルーフ樹脂モルタル	—	—	10 時間以上 7 日以内	0%
中塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%
上塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%

※施工現場にて、珪砂等、骨材の配合によって粘度調整を行い、パテ状、モルタル状にすることで、小径の穴やヒビ割れ等の不陸調整ができます。

※社外品代用可能です。



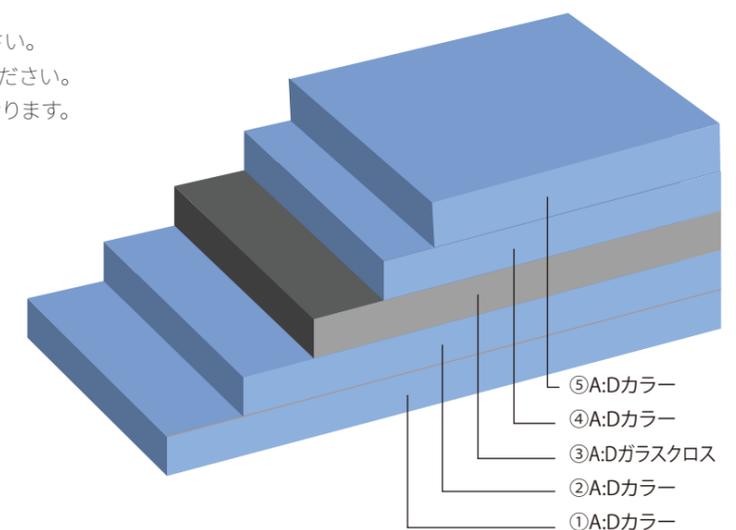
## ガラスクロス工法標準施工仕様

工程	使用材料	標準塗布量	膜厚 (μ)	塗装間隔 (20°C)	希釈率
素地調整	素地面によって異なります。仕様書をご確認ください。				
下塗	エポブルーフ ASP : DSP	0.25 kg / m <sup>2</sup>	70±20	素地調整後直ちに	0～3%
	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	素地調整後直ちに	0～3%
中塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%
補強層	ガラスクロス (EPF-21A 規格品)	—	250	中塗り後直ちに	—
中塗	エポブルーフ A:D カラー	0.4～0.6 kg / m <sup>2</sup>	140±20	24 時間以内	0～3%
上塗	エポブルーフ A:D カラー	0.25 kg / m <sup>2</sup>	140±20	10 時間以上 7 日以内	0～3%

※ガラスクロスを使用することにより、耐摩耗・耐衝撃・耐クラック性の向上が図れます。

### 方法

- ・必ずA:DカラーもしくはASP: DSPで下塗りを行ってください。
- ・ガラスクロスはJIS規格番号EPF-21A該当品をお使いください。
- ・塗装回数が5～6回となり、塗布量も1000g/m<sup>2</sup>以上になります。



## 対応施設例

工場・プラント（各所防食）



倉庫（床ライニング等）



公共施設（各所防食・水道関連）



マンション（機械式駐車場・階段等）



鋼構造物



浄水場



コンクリート構造物



養魚場



※その他施工実績・事例はお問い合わせください。

## 施工要領

### 1・施工前（必要機器の準備）

- 1) 計量器 塗膜を完全に硬化させるため、主剤と硬化剤の重量が1:1となるよう計量してください。
- 2) 電動攪拌機 エポブルーフは粘度が高いため、ハケやヘラでの攪拌では混ざりません。高速攪拌機（ディスパー）又は中低速攪拌機（ミキサー）を使用してください。
- 3) 混合容器 プラスチック製の使い捨て容器などを使用し、塗料類の入っていた空き缶の使用は避けてください。
- 4) 塗装具 ハケ及びローラー（短毛・脱泡ローラーが良い）
- 5) 加温設備 ペイントヒーター

### 2・施工上の注意事項

- 1) 使用環境 使用時の環境温度が低温の際は、塗材を稀釈せずにペイントヒーター等を利用し、エポブルーフを25°C～30°Cに加温してから使用してください。  
※エポブルーフA：Dカラーは5°C以下では硬化反応が進まない為、いつまでも塗膜は柔らかい状態が続きます。  
※エポブルーフは外部に放置せず夜間は室内に保管してください。
- 2) 配合割合 主剤と硬化剤の割合 計量器で正確に重量比 1：1としてください。  
※配合が正確でないと硬化しない事があります。
- 3) 材料の調整 攪拌機で主剤と硬化剤を別々に攪拌し、混合後に再度攪拌してください。  
攪拌時間は環境によりますが、約3分～5分としてください。  
攪拌後使用前に5分間静止状態で放置してください。（材料の均一化、脱泡のため）
- 4) 混合量 可使時間は、約50分/20°Cと考え時間内に塗布出来る量としてください。  
※反応速度は気温、液温及び仕込量によって異なります。
- 5) 希釈 液温が20°C以上あれば出来るだけ無希釈でご使用ください。  
※シンナー希釈を行うと乾燥が遅れます。乾燥してから上塗り塗装を行ってください  
※JWWA 基準適合仕様の場合、材料の希釈は、原則禁止です。
- 6) 標準塗布量 エポブルーフA：Dカラーの塗布量は、約0.25 kg/㎡ 膜厚約140±20μ/回です。
- 7) 標準塗布回数 エポブルーフの標準塗布回数は3回塗りです。
- 8) 塗装間隔 エポブルーフは1日/1回塗りを原則とします。（10時間/20°C以上）  
※塗装前後の5時間以上（20°C）は降雨を避けてください。
- 9) 保護塗装 エポブルーフはエポキシ樹脂であるため、直射日光による紫外線劣化する恐れがあります。  
屋外施設などにおいては、トップコートが必要です。
- 10) 塗膜硬化 完全硬化までは7日間です。  
※短日時の硬化養生では、水質検査時の化学品溶出量が基準値以上になる可能性があります。

## 注意事項

### 💡作業環境

作業環境については無溶剤で有害ガス等の発生がないため安全ですが、粘度調整に専用シンナーを添加した場合は密閉箇所、地下作業、槽内等においては、酸欠その他の事故防止のため下記の注意事項を守ってください。

### 💡安全対策

1. 火気のあるところでは使用しないでください。
  2. 取扱作業場所には、局所排気装置を設けてください。
  3. 塗装中、乾燥中ともに換気を良くし、蒸気を吸込まないようにしてください。
  4. 取扱中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて、有機ガス用防毒マスク又は送気マスク、保護手袋、前掛け等を着用してください。
  5. 容器からこぼれた場合には、砂等を散布したのち処理してください。
  6. 取扱後は、手洗い及びうがいを十分行ってください。
  7. 作業着等に付着した場合には、その汚れをよく落とし、洗濯してください。
  8. 皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには、医師の診察を受けてください。
  9. 目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
  10. 蒸気ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて、医師の診察を受けてください。
  11. 誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
  12. 火災時には炭酸ガス、泡又は粉末消火器を用いてください。
  13. よくフタをし、一定の場所を定めて貯蔵してください。
  14. 中身を使いきってから廃棄してください。
  15. 本来の用途以外に使用しないでください。
  16. 5°C以下での塗付作業はしないでください。
- ※詳細な内容が必要な場合には、製品安全データシート(SDS)をご参照ください。  
※塗布作業について不明な点は、お問い合わせください。